

令和 3 年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

○ 教育委員会評価にかかる難易度基準の設定

難易度	難易度設定の基準
A	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
B	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
C	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

○教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

○ 評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。

難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。

右の例示は難易度B、達成度3。

(達成度)

4			
3			
2			
1			

C B A

(難易度)

令和3年度分 加西市教育委員会点検評価 総括表

番号	所属課	取組項目	評価		頁
			難易度	達成度	
1	こども未来課	家庭や関係機関の協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とのかかわる力を育成します。	B	2	2
2	こども未来課	0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援事業などの事業を充実させます。	B	1	3
3	こども未来課	放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。	B	2	4
4	学校教育課	探究的な学び（STEAM教育）の積極的な推進により、主体的・対話的で深い学びを実現し、「確かな学力」を育成します。	A	2	5
5	学校教育課	「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。	B	3	6
6	学校教育課	体力・運動能力の改善や向上などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るために基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	B	2	7
7	教育総務課	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	B	4	8
8	教育総務課	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	A	3	9
9	総合教育センター	「兵庫県教員資質向上指標」に基づいた研修や教職員のニーズに応じた講座、新しい教育を切り拓く講座を開設し、教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます。 教育図書を拡充し、利用促進を図ります。	B	4	10
10	総合教育センター	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。	B	3	11
11	総合教育センター	「加西市小中連携教育推進ガイドブック」に基づき、系統性のある指導を目指した連携を強化し、「中1ギャップ」の軽減を図ります。	A	2	12
12	生涯学習課	「人生100年時代」を念頭に、公民館主催講座やかしのき学園などで、多岐に渡ったテーマの講座を開催します。	B	3	13
13	生涯学習課	「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。	B	1	14
14	生涯学習課	歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。	B	3	15
15	図書館	市立図書館と学校図書館とが連携し、子ども達の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。 こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。	B	3	16
16	図書館	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人までの多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 図書館の情報化を推進し、ICTを活用した次世代の図書館づくりをめざします。	B	1	17

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	1	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	「生きる力」の基礎を育む幼児期の教育・保育を充実します。						
取組項目	家庭や関係機関の協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とのかかわる力を育成します。						
取組内容	・公立立園年齢別保育内容研修を開催する。 ・公立こども園園内研修会を開催する。 ・幼小接続に向けた体制を充実する。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
年齢別保育内容研修の開催数（回） 公私立職員の資質向上 情報交換及び情報提供を目的とする 市内全域での保育の質を上げる	目 標	10	10	10	10	10	10
	実 績	9	10				
	達成率	90%	100%				
園内研修会の開催数（回） 幼児教育の質の向上 各園の実情・課題に沿った研修内容の精査 →スキルアップへ	目 標	10	10	10	10	10	10
	実 績	9	13				
	達成率	90%	130%				
幼小間交流事業回数（回） 幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して 園児と児童、又は教職員同士の互恵性ある学びの充実	目 標	7	7	7	7	7	7
	実 績	1	1				
	達成率	14%	14%				
主な取組の成果	・年齢別保育内容研修では、令和3年度から参加対象を公私立全園とした。 ・大学教授等による園内研修会の他に、特別支援教育の充実に向け関係機関の発達支援アドバイザーの派遣要請を随時行い研修を重ねた。 ・年度当初からコロナ禍により、幼小間交流事業は計画段階も含め実施できなかった。						
達成度の説明・理由	評価						
※満足度調査実施							
・各園の実情に応じた講師を選び研修会の充実につながった。又、新任研修等園外の職員にも呼びかけ、スキルアップにつながったため、達成度について「ほぼ目標を達成した」とした。							
今後の課題							
・年齢別保育内容研修会では、開催趣旨の説明不足もあり、私立園の参加率が低かった。市内各園の保育技術の向上を目指し参加率を挙げることで、公私立ともに保育の質の向上につなげたい。担当園を担うことで各園の技術の向上を促し、公私立全園の保育の質の向上につながると考える。							
・各小学校区における幼小交流充実に向けた働きかけを、立地状況を考えながら計画的に行う。小1プロブレムの解消やスムーズな教育活動の移行を目指し、相互理解を深めていく。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	2	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	子育て家庭を支える子育て環境を充実します。						
取組項目	0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援事業などの事業を充実させます。						
取組内容	・入園前の子どもがいる保護者に、親子のふれあいや親同士の交流、育児の不安や悩みを相談する場を提供する。 ・認定こども園や小規模保育所等を整備、推進する。 ・病気の児童を一時的に保育するための病児・病後児保育事業を実施する。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
子育てひろば利用者数（人） 子育て親子の交流の場の提供と交流を促進 子育て等に関する相談、援助の実施 地域の子育て関連情報の提供	目 標	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	実 績	12,928	7,668				
	達成率	65%	38%				
毎年4月1日の待機児童数（人） こども園での保育を必要とする家庭の支援 仕事と子育てとの両立に資することを目的とする	目 標	0	0	0	0	0	0
	実 績	0	2				
	達成率	100%	0%				
病児・病後児保育事業の年間新規登録者数（人） 家庭での保育が困難な保護者に代わって保育・看護する 仕事と子育てとの両立に資することを目的とする	目 標	70	70	70	70	70	70
	実 績	76	66				
	達成率	109%	94%				
主な取組の成果	・子育てひろば、病児保育の利用については、イーナカサイや幼保施設等への案内を試みたが、新型コロナウイルス感染症による利用控えがあった。 ・小規模保育施設の開設等を実施し、待機児童の解消を図った。						
達成度の説明・理由	評価						
保育教諭の不足により利用定員の拡大が出来ず、待機児童を解消できなかった。							
新型コロナウイルス流行により、子育てひろば及び病児・病後児保育室の閉鎖が続いた。							
不可抗力による利用者の減少があり、専門機関への十分な利用者支援が出来なかった。							
今後の課題							
・子育てひろばや病児保育について、さらに積極的な市のSNSや広報誌によるPRが必要。							
・待機児童解消に向け保育士確保のため「保育士・保育教諭合同就職/園案内フェアin加西」開催や大学・専門学校等のキャリアセンターへ訪問、または教授等と直接交渉する。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	3	所属課	こども未来課					
基本方針	幼児期の子育て支援の充実							
基本施策	子育て家庭を支える子育て環境を充実します。							
取組項目								
放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。								
取組内容								
・放課後や土曜日、長期休業中の児童健全育成の場となる学童保育事業の充実を図るため、九会学童保育園や泉学童保育園を整備し、定員の拡大及び児童の生活環境改善を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
毎年4月1日時点の入園者数（人） 過去の標準的入所者を基準とし、入所者の増減比較をする。	目 標	381	381	381	381	381	381	
	実 績	368	398					
	達成率	97%	104%					
毎年4月1日時点の入園率（入園者数/希望者数）（%） 申込み者数に対する入園者数を数値化することにより育児支援の向上を図る。	目 標	100	100	100	100	100	100	
	実 績	368/403	398/422					
	達成率	91%	94%					
	目 標							
	実 績							
	達成率							
主な取組の成果								
・九会地区の入園保留児童が減少した。 ・1月にはLINEを利用した欠席連絡を導入し、保護者の利便性の向上を図ると同時に、各学童苑にメール通知が届くことで支援員の負担が減り業務効率化に繋がった。								
達成度の説明・理由					評価			
・九会学童保育園の入園保留児童減少があったものの、市全体では入園保留者が生じているため、達成度は「ほぼ目標を達成」とした。								
今後の課題								
・泉学童保育園施設の建替えにより、定員を30人から60人に拡大する。 ・今後は児童の出生数から勘案して定員拡大が見込づらいため、支援員確保により可能な限り入園希望児童の受入に努めたい。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	4	所属課	学校教育課				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。						
取組項目							
探究的な学び（STEAM教育）の積極的な推進により、主体的・対話的で深い学びを実現し、「確かな学力」を育成します。							
取組内容							
・学校づくり応援事業を通して、加西STEAMを推進する。 ・かさい学力向上プロジェクト事業によって、児童生徒の学力向上を図る。 ・GIGAスクール構想によるICT教育を推進する。 ・スクールサポーター（スクールアシスタント、ヤングアドバイザー、ICT支援員等）を配置し、児童生徒の学びの保障を行う。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
全国学力・学習状況調査において、全国との差が2ポイント以上高い平均正答率を示した教科数の割合 →目標：全教科数に対する50%以上の教科数 実績：全国平均を上回った教科数	目 標	実施なし	50%	50%	50%	50%	50%
	実 績	実施なし	25%				
	達成率	—	50%				
【小学校】全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的な回答をした割合 →目標：全国平均 実績：加西市平均	目 標	実施なし	78.2	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
	実 績	実施なし	81.8				
	達成率	—	105%				
【中学校】全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的な回答をした割合 →目標：全国平均 実績：加西市平均	目 標	実施なし	81.0	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
	実 績	実施なし	79.8				
	達成率	—	99%				
主な取組の成果							
・加西市が育成を目指すChallenge、Create、Collaborate（3C）の資質・能力を明確にする教育活動の推進に向け、校内外の研修会の充実を図ることができた。 ・「学校づくり応援事業」により、各校の実態に応じて人材育成の視点を取り入れた教育活動を各校で工夫を凝らして実施した。 ・主体的・対話的な学びの実現に向け、1人1台端末の活用に向けた研修を実施するなど、教職員の指導力向上が図れた。 ・学校の実情に応じたスクールサポーターや地域人材の配置により、各校の特色を活かして3Cの資質能力の育成に取り組んだ。							
達成度の説明・理由					評価		
・人材育成の視点での加西STEAMに取り組み始めた初年度として、これまで各校において実施してきた探究的な学びについて、改めて価値づけや意味づけを行った。教職員が自校の児童生徒の実態を把握し、学習者視点の主体的な学びへの変換を図ることを主眼とした取組を推進することができたため、教職員の意識達成度について「ほぼ目標を達成した」とした。							
今後の課題							
・教職員がこれまで以上に3Cの資質能力を意識した教育活動・授業改善に向かう研修等の充実を図る。 ・児童生徒が自ら3Cの資質能力を振り返り、学びに向かう力へと結びつけることができる学習計画を行う。 ・児童生徒の個別最適化された学びの推進に向けた支援員等、人的環境の整備を行う。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	5	所属課	学校教育課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目								
「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。								
取組内容								
・校内外の研修の充実を図り、道徳教育を推進する。 ・社会参画に必要な態度や能力を育てるために、キャリア教育を推進する。 ・心の教育の充実を図るため、兵庫型「体験教育」を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
道徳教育に係る校内研修及び公開授業参観（オープンスクール等）の実施回数 →目標：16校×6回 実績：全校の実施総数	目 標	—	80	90	90	96	96	
	実 績	—	85					
	達成率	—	106%					
【小学校】全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「自分には良いところがあると思う」と肯定的な回答をした割合→目標：全国平均 実績：加西市平均	目 標	全国平均以上	76.9	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	実施なし	81.7					
	達成率	—	106%					
【中学校】全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「自分には良いところがあると思う」と肯定的な回答をした割合 →目標：全国平均 実績：加西市平均	目 標	全国平均以上	76.2	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	実施なし	82.7					
	達成率	—	109%					
主な取組の成果								
・小・中2校で道徳教育研究の取組について実践発表を行った。また、道徳教育拠点校育成支援事業を活用し、中核となる学校を中心に「深い学びのある道徳授業の実践」に中学校区全体で取り組む機会を設定した。 ・コロナ禍における体験教育であったが、地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業、加西市の教育資源（鷗野飛行場や網引湿原、オークタウン加西等）を有効活用した活動を実施した。								
達成度の説明・理由					評価			
・全学校での道徳科の授業公開や、講師を招聘した校内研修の実施、拠点校育成事業による中学校区間での共同研修の実施などにより、教師の指導力を向上させることができた。また、児童生徒が意欲や目的意識をもって体験教育に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。 以上により、達成度は、「目標を超えて達成」とした。								
今後の課題								
・自尊感情を育み、自他の生命尊重や思いやり等、道徳性を養うための「体験教育」を充実させる。 ・他者や自己との対話による「深い学び」を目指す道徳科の授業研究を推進する。 ・次世代型人材の育成の視点で、地域と協働しながら各校の特色ある取組を促進する。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	6	所属課	学校教育課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目	体力・運動能力の改善や向上などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るために基礎を養い、「健やかな体」を育てます。							
取組内容	・児童生徒の発達段階に応じた体力向上を図るために、かさい体力向上プロジェクト事業を実施する。 ・運動やスポーツの習慣化を目指し、「体力アップひょうご」サポート事業を実施する。 ・中学校における部活動の充実を図るため、部活動指導員の配置を拡充する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査 ※各種目の平均数値が全国平均を上回った種目数 →種目数：小・男女…各8種目 中・男女…各9種目 合計34種目	目 標	実施なし	20	22	24	26	28	
	実 績	実施なし	16					
	達成率	—	80%					
【小学校】全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査項目 体育の授業が「楽しい」と肯定的な回答をした割合 →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：男子、右：女子	目 標	実施なし	93.8 89.2	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	実施なし	96.6 90.3					
	達成率	—	103% 101%					
【中学校】全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査項目 体育の授業が「楽しい」と肯定的な回答をした割合 →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：男子、右：女子	目 標	実施なし	90.1 83.0	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	実施なし	82.3 81.5					
	達成率	—	91% 98%					
主な取組の成果	・体育の授業において、授業に向かう児童生徒の心を大切に、「好き」「楽しい」という肯定的な感情が生まれる授業展開を進めた。 ・「体力アップひょうご」サポート事業を小学校2校で実施した。陸上競技や器械運動を中心に、楽しんで走る考え方や練習方法、また恐怖心等のメンタルブロックを外して器械運動に挑む考え方や練習方法について指導を受けて取り組んだ。 ・加西市内の全中学校に「部活動指導員」を配置し、生徒の運動することの喜びや意欲を高め、確かな資質・能力を身に付ける取組を進めた。							
達成度の説明・理由	評価							
・小学校においては、児童の運動することに対する「好き」「楽しい」という感情を重視した授業の工夫がなされている。中学校においても、運動が苦手とする生徒が増えつつある時期であるが、個々の生徒が自ら到達目標を設定するなど、達成感のある授業を実施することができた。一方で、体力テストで全国平均を上回った種目数が80%にとどまったため、達成度は、「ほぼ目標を達成」とした。								
今後の課題								
・体育の授業が「楽しい」と感じる児童生徒が増えたが、体力・運動能力の改善や向上に結びついていないので、全国体力・運動能力調査の結果を踏まえ、現状の改善を見据えた授業改善に着手する。								
・「体力アップひょうご」サポート事業の取組を市内全体の小学校へ広げ児童の運動能力の改善を図る。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	7	所属課	教育総務課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。							
取組内容	・アレルギー対応食の除去品目の拡大を図る。 ・地産地消を推進し、市内産食材の使用量を拡大し、素材を活かした調理の工夫を図る。 ・給食センターにおける衛生管理を徹底する。 ・食育セミナーを開催する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
市内産食材の使用率 1人当たりの年間消費重量(kg) 市内農家と学校給食をつなぐ食育を推進するため、市内産の食材の消費量を5年後に20kgをめざす。 詳細は【別表1】参照	目 標	17.1	18.0	18.5	19.0	19.5	20.0	
	実 績	16.0	19.4					
	達成率	94%	108%					
アレルギーによる給食対応の除去品目(品目数) 1(卵)→2(卵、乳製品) 令和4年度は準備期間として、現在の卵に加えて乳製品を令和5年度から新たに除去品目に加えることを目標とする。	目 標	1	1	1	2	2	2	
	実 績	1	1					
	達成率	100%	100%					
食育セミナーの開催数(回数) 食育推進のため、教職員や調理員、保護者等を対象とした食育セミナー(講演会、調理実習、体験学習等)を毎年2回開催することとした。回数を目標としたのは対象者や内容に変化を持たせるため。	目 標	0	2	2	2	2	2	
	実 績	0	3					
	達成率	—	150%					
主な取組の成果	・栄養教諭を中心に、食に関する知識や栄養、食習慣、食事マナーに関する食育指導や食育だよりの発行を各校で実施した。 ・給食センターにおいては衛生管理の徹底と安全安心の学校給食の提供を実施できた。 ・市農政課と連携し、農園訪問や児童生徒の感想文の提供等、学校給食を軸に食農体験の拡充が進んだ。 ・国の食育推進会議の委員である服部幸應氏を招き、教職員を対象にSDGsをテーマとした講演会を開催した。 ・イタリア料理シェフによる調理員講習会、魚と食に関する体験学習などユニークな研修会を新たに企画することができた。							
達成度の説明・理由							評価	
・愛菜館や播磨農高との提携で市内産食材の利用が伸び、「目標を大きく超えて達成」とした。								
・服部氏の講演会331人、調理講習会12人、体験学習親子20組の参加があり、啓発効果があった。								
・コロナ禍においても衛生管理を徹底し、安全・安心な給食の提供が行えた。								
今後の課題								
・じゃがいも、にんじん、キャベツ、玉ねぎといった給食主要作物の市内産使用率をさらにあげる。								
・令和4年度からの学校給食の無料化をさらにPRするとともに、給食の質のレベルを上げる。								
・学校給食を軸とした食育活動の啓発を様々な方法でさらに広げていく。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	8	所属課	教育総務課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します							
取組項目								
児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。								
取組内容								
・小中学校のあり方の検討を進め、これからの地域に相応しい学校の環境整備を図ります。 ・学校内の照明器具のLED化を進め、良好な学習環境整備を図ります。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
未来の学校構想検討委員会の開催数（回数） 保護者や学校等の関係者、各種の住民団体の代表で構成する加西市未来の学校構想検討委員会を立ち上げ、令和4年9月に答申をまとめる。令和5年度以降の目標値は答申後に再度設定を行う。	目 標	5	3	4	—	—	—	
	実 績	5	3					
	達成率	100%	100%					
LED照明の更新数（基） 学習環境の改善を図るため、校舎・体育館に設置されている灯具をすべて蛍光灯からLED灯具へ更新する。 総数15校 5,097箇所の更新を100%とする。	目 標	312	1,448	2,776	3,529	4,399	5,097	
	実 績	312	1,448					
	達成率	100%	100%					
	目 標							
	実 績							
	達成率							
主な取組の成果								
・市内小中学校の将来のあり方を有識者らで検討する「加西市未来の学校構想検討委員会」を設置した。 ・検討委員会は市長から諮問を受け、翌年9月に答申を行うこととし、令和3年度は計3回の会議を開催した。 ・中学校再編と小学校の学園構想を柱とする素案を発表し、連合PTA、教職員等へアンケート調査の説明を行った。 ・7小学校普通教室、4中学校特別教室、特別支援学校普通教室における照明器具の1,136基の灯具を更新し、完了箇所が1,448基となった。								
達成度の説明・理由					評価			
・検討委員会の設置によって公開の場で将来の学校構想の素案を議論することができた。 - 素案をもとにアンケート実施に至ったので、達成度は「目標を超えて達成」とした。 ・LED照明更新は学校の夏休み期間を活用し、目標数どおり安全に工事を完了できた。								
今後の課題								
・アンケート結果の分析、答申作成に向けて9月末までの会議開催数を増やす。 ・答申後の市民説明、公聴会等の開催等、全庁横断的な議論が求められる。 ・計画を前倒してLEDの更新ができるよう設計や工事方法について見直しを行う。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	9	所属課	総合教育センター				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します。						
取組項目							
「兵庫県教員資質向上指標」に基づいた研修や教職員のニーズに応じた講座、新しい教育を切り拓く講座を開設し、教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます。 教育図書を拡充し、利用促進を図ります。							
取組内容							
・教職員のキャリアステージや専門分野に応じた研修を充実させる。 ・日常的OJTとしての教師力向上講座、不登校や発達支援といった喫緊の教育課題解決に向けた研修講座を実施する。 ・新学習指導要領・ICT利活用促進・STEAM教育等の新しい教育に向けた講座を充実させる。 ・年3回の移動図書館実施による利用促進と教職員を対象にした新規購入希望図書調査を実施する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
研修講座受講者のべ人数（人） 市内教職員約300人が、一人平均3回以上受講することを目標値とした	目 標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	実 績	687	1,389				
	達成率	69%	139%				
受講者を対象とした講座アンケートの評価点（点） （5点満点中受講者評価の平均点） ※R4より評価項目の見直しを行う 過去の実績と評価項目の見直しにより目標値を設定	目 標	4.5	4.5	4	4	4	4
	実 績	4.46	4.79				
	達成率	99%	106%				
市内教職員への貸出冊数（冊） 過去の実績をもとに、市内教職員約300人へ、一人平均3冊の貸出を目標値とした	目 標	800	900	900	900	900	900
	実 績	777	962				
	達成率	97%	107%				
主な取組の成果							
・喫緊の課題に対する講座を開設し、現場で実践を積み上げた講師を選定することにより、学校、教職員のニーズに応えることができた。 ・コロナ禍においても、オンライン研修を積極的に取り入れ、受講の機会を確保することができた。 ・例年3回の移動図書館を4回に変更し、貸出冊数の上限も撤廃することで、昨年より大幅に貸出冊数を伸ばすことができた。 ・教職員の希望図書を調査・購入することで、現場のニーズに対応した図書をそろえることができています。							
達成度の説明・理由					評価		
学校や教職員が望み必要と考える研修講座内容や講師選定を行うことで、研修講座受講者数、講座アンケートの評価点が目標値を越えている。また、センター図書の貸出冊数も、移動図書館の回数を増やし、新規購入図書を周知したことにより大幅に伸びている。これらのことから、「目標を大きく超えて達成」とした。							
今後の課題							
・市内16校の教育課程を考慮し、希望する職員が受講可能な40程度の講座日程の確保。 ・学校現場の運営や教職員の負担が大きくなりすぎない講座開設の時期、時間帯、研修方法の考慮。 ・集合型研修とオンライン研修の特性や利点を検証し、差別化を図る。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	10	所属課	総合教育センター				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します。						
取組項目	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。						
取組内容	・発達支援・不登校・いじめ等に対し、児童生徒一人一人の特性や状況に応じた適切な支援を行う。 ・発達支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー等による相談体制を強化し、適応教室・発達支援プログラム等の個に応じた支援体制を整え、学校との連携を行う。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
発達支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー・センター臨床心理士が対応した教育相談件数（件）	目 標	1,600	1,800	2,700	2,700	2,700	2,700
※令和3年度よりスクールソーシャルワーカー1名増員 令和4年度よりカウンセリング日数追加	実 績	1,500	2,636				
過去の実績を参考に、相談可能な最大件数を試算し設定	達成率	94%	146%				
各校における不登校対策委員会、生徒指導委員会、教育支援委員会等で発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが連携した会議数（回） ※	目 標	60	100	112	112	112	112
令和3年度よりスクールソーシャルワーカーが1名増員	実 績	44	98				
市内16校に発達アドバイザーが年間1回以上、スクールソーシャルワーカー2人が各学期1回参加を目標に設定	達成率	73%	98%				
適応教室及び発達支援プログラムの登録者数（人）	目 標	40	40	40	40	40	40
両事業の現在の相談員の人数で個に応じた指導・支援できる適正人数として目標設定	実 績	38	40				
	達成率	95%	100%				
主な取組の成果	・スクールソーシャルワーカー1名増員と学校への発達支援アドバイザー、スクールソーシャルワーカーの認知・積極的活用が進み、より多くの相談に対応ができた。 ・各校での児童生徒支援会議へ、発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが参加をすることで、連携した支援につながることができた。 ・適応教室や発達支援プログラムの希望者を、現体制で受け入れ可能な最大数を受け入れることができた。						
達成度の説明・理由	評価						
発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーの認知と、スクールソーシャルワーカーの増員により、前年度を大きく上回る相談に対応し、必要な支援につながることができた。また、各校で開催される支援会議にも、発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが参加し、昨年度以上に学校との連携を進められた。不登校や発達に特性のある児童生徒に適応教室や発達支援プログラムでの支援を通して、個々の課題の改善を行った。以上のことから、「目標を超えて達成」とした。							
今後の課題							
・適応教室や発達支援プログラムにおいては、現体制では受け入れ人数が限界になりつつある。							
・学校とより連携をとり、児童生徒にとって必要な支援のアセスメントを強化していく。							
・支援を必要としながらも、学校や関係機関とつながっていない児童生徒や家庭へのアプローチ。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	11	所属課	総合教育センター				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	小中連携教育を充実します。						
取組項目	「加西市小中連携教育推進ガイドブック」に基づき、系統性のある指導を目指した連携を強化し、「中1ギャップ」の軽減を図ります。						
取組内容	・加西市小中連携推進委員会を年2回開催する。 ・小中連携指導シートを活用した系統性のある指導のための校区別研修会等を開催する。 ・小中連携の取組（中1ギャップ）に対する児童生徒へのアンケート調査・検証を行う。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小中連携に関する研修会を年4回以上開催した中学校区数（校区） 4中学校区全てにおいて、年2回の推進委員会、年2回の小中合同研修会の計4回を目標と設定	目 標	4	4	4	4	4	4
	実 績	4	4				
	達成率	100%	100%				
アンケート調査により、小中連携の取組が不安軽減につながったと回答した人数の割合（%） 過去の実績をもとに、更なる成果を目標として設定	目 標	95	95	95	95	95	95
	実 績	92	89				
	達成率	97%	94%				
主な取組の成果	・コロナ禍においても、各中学校区毎で小中学校の教員が集まり、対面で計画や振り返りを話し合う機会をもち、取組の検証が行えた。 ・小中連携の継続した取組が、小中間の教職員の情報共有・意識共有・指導観共有につながっている。 ・各校区で工夫された小中交流会や体験入学は、小6児童の進学に対する不安軽減と憧れにつながる一定の成果となっている。						
達成度の説明・理由	評価						
・目標達成率の数値は低くないが、コロナ禍における取組活動の制限により、各校が計画していた取組ができず、児童に実体験の機会を十分させてやる事ができなかった。しかし、小中教職員による合同研修会では、様々な分野における9年間の系統性について協議され、児童生徒理解や教師力向上につながっていることから「ほぼ目標を達成」とした。							
今後の課題							
・他校、他校種間での、小中連携に関する行事や打ち合わせの時間確保が困難である。							
・コロナ禍において、教職員の研修会や児童の体験行事の工夫や代替措置。							
・適切な現状分析をすすめ、I C T活用も含めた、より効果的な小・小中連携の取組の検討。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	12	所属課	生涯学習課				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりを推進します。						
取組項目							
「人生100年時代」を念頭に、公民館主催講座やかしのき学園などで、多岐に渡ったテーマの講座を開催します。							
取組内容							
・住民のニーズを的確に把握し、それぞれの年代に応じた学習機会を提供する。 ・地域の生涯学習や仲間づくりの拠点である公民館の施設・設備を計画的に整備する。 ・様々な媒体を利用し、生涯学習情報の発信を行う。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
公民館主催講座の年間講座数(回)	目 標	55	40	45	50	55	55
各館で7～9の連続講座と、加えて、時代に即した講座や市民が求める講座を単発で開催している。時代や市民のニーズに合った学習機会の提供を増やすため目標として設定した。	実 績	38	46				
	達成率	69%	115%				
公民館ブログ (HP) の更新数(回)	目 標	-	80	85	90	95	100
各館で開催案内(受講者募集)、主催講座等公民館の活動紹介でブログを活用している。ブログの更新回数を月2回以上に設定し、情報発信に取り組む。	実 績	-	86				
	達成率	-	108%				
	目 標						
	実 績						
	達成率						
主な取組の成果							
・主催講座として健康、運動、料理、伝統文化、歴史、国際交流、環境など多岐にわたる連続講座を36講座開催した。 ・夏休み子供向け講座や次年度開催に繋げるための講座など単発の講座を10講座開催した。 ・シニアカレッジ「かしの木学園」は各館趣向をこらした講座を各館9回開催した。 ・南部、善防公民館及びオークタウン加西の体育館照明LED化や修繕を行い、快適な利用環境を整備した。 ・公民館ブログとして主催講座等の活動内容や登録グループを紹介した。							
達成度の説明・理由						評価	
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期もあったが、検温、消毒、換気等の対策を行い、目標を上回る講座を開催した。幅広い世代の利用促進のため夏休み子供向け講座等を開催した。							
・単発講座から2つの講座が次年度の連続講座につながった。達成度は「目標を超えて達成」とした。							
今後の課題							
・オンライン講座やeラーニングなど場所や時間を問わず受講できる施設整備と体制づくりを行う。							
・各館長とともに、STEAM関連など時代に即した講座の開催や、交流スペースや展示スペースを設けるなど講座や貸館以外の利用の促進を推進する。							
・主催講座から登録グループ化を進める。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	13	所属課	生涯学習課					
基本方針	生涯にわたる学習の充実							
基本施策	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりを推進します。							
取組項目								
「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。								
取組内容								
・出前講座の参画グループ、活動者数を拡大する。 ・公民館登録グループ、社会教育団体の主体的な活動を支援する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
出前講座実施グループ数（団体数）	目 標	30	15	20	25	30	35	
活動内容や学習内容を地域に還元することが公民館活動の目的の一つとなっている。コロナ禍で減少している活動状況を改善するべく、目標として設定した。	実 績	11	12					
	達成率	37%	80%					
出前講座活動者数（人）	目 標	250	250	300	350	400	450	
登録グループの高齢化が進んでおり、出前講座など活動内容や学習内容を披露する機会を増やすことにより、グループへの参加者や新規登録グループを増やすため、目標として設定した。	実 績	199	153					
	達成率	80%	61%					
	目 標							
	実 績							
	達成率							
主な取組の成果								
・各種イベントや敬老会で出前講座を実施し、学習成果を発表した。 ・主催講座や登録グループについて掲載した公民館への誘いを市内全戸に配布し、登録グループや出前講座を紹介した。 ・ホームページで登録グループの概要や活動内容を紹介した。								
達成度の説明・理由						評価		
・新型コロナウイルスの影響により、各種イベントや敬老会などの開催が控えられたため、出前講座の要望が減少した。また、登録グループもコロナ禍により活動を控える傾向にあった。 上記の理由により、実績が目標を下回ったため、達成度は「目標を下回る」とした。								
今後の課題								
・主催講座から登録グループ化を進める。 ・ホームページや公民館だよりなどで登録グループの活動、メンバー募集、出前講座のPRを行う。								

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	14	所属課	生涯学習課				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	「楽しみながら、活かす、歴史文化遺産」を推進します。						
取組項目							
歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。							
取組内容							
・令和3年度新設の「歴史文化を活かしたまちづくり活動補助事業」制度を周知する。 ・補助金制度を整え、歴史文化遺産を継承する地域の活動を支援し、まちづくりを推進する。 ・歴史文化遺産の積極的な公開活用を実施し、市域の歴史文化遺産の魅力を広く発信する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域団体等による歴史文化遺産を活用した活動の支援 (件)	目 標	—	10	15	20	20	20
	実 績	4	17				
	達成率		170%				
補助事業の周知度を測るため、支援件数を目標として設定した。	目 標	—	2	2	3	3	3
	実 績	0	4				
	達成率		200%				
・歴史資料等の公開、活用回数 (件) ※市主催事業件数 (共済事業除く)	目 標	—	2	2	3	3	3
	実 績	0	4				
	達成率		200%				
展示や講座開催を通じて、市民が歴史文化遺産に興味を持つことができる機会を設けることを目標とした。	目 標						
	実 績						
	達成率						
主な取組の成果							
・歴史文化を活かしたまちづくり活動補助事業として17件支援した。(うち活用事業8件、美化事業9件) ・想定以上の申込みがあり、補助事業制度の周知を図ることができた。実施団体からの実績報告を通して、歴史文化遺産を通じた世代間交流の様子も把握でき、まちづくり活動に推進の一助となった。 ・これまでに蓄積されてきた歴史文化遺産の調査成果を公開したことで、郷土への関心や、未指定の歴史文化遺産への興味関心を育む機会とすることができた。							
達成度の説明・理由						評価	
・補助事業制度の周知により、想定以上の申込みがあった。補助事業を通じて地域の文化財の活用方法、活用によるまちづくりについて支援することができた。近年実施できていなかった展示やミニ講座を実施し、文化財に関する問合せもあり魅力発信につながった。達成度は「目標を超えて達成」とした。							
今後の課題							
・補助活動による効果を市民にわかりやすく助言し、継続的な活動になるよう支援を充実させる。 ・埋蔵文化財整理室における展示・活動の周知と、市民による整理室活用を促進する。 ・ネット博物館・まちかど展示・HPの充実等、展示場所を限定せず活用事業を実施する。 ・公開活用の企画や開催場所・方法を検討し、参加者増につなげる。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	15	所属課	図書館				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。						
取組項目	市立図書館と学校図書館とが連携し、子ども達の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。 学校やこども園への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。						
取組内容	・学校やこども園からの図書館見学の受け入れ、学校やこども園に出向いてのおはなし会やブックトークを実施する。 ・小・中・特別支援学校やこども園からの依頼により図書の団体託送サービスを実施する。 ・中学校・公立こども園へ、定期的に図書館の本を巡回貸出する。 ・学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業の支援をする。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小・中学校へのブックトーク、おはなし会等の出前講座（回） 小・中学校との連携度合いを測るため目標として設定した。	目 標	16	10	12	14	15	16
	実 績	4	16				
	達成率	25%	160%				
小・中・特別支援学校、公立こども園への図書の団体貸出託送サービス（冊） 小・中・特別支援学校、公立こども園との連携度合いを測るため目標として設定した。	目 標	2,500	2,600	2,700	2,700	2,800	2,800
	実 績	2,737	2,873				
	達成率	109%	111%				
学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業（延べ学校数） 小・中・特別支援学校との連携度合いを測るため目標として設定した。	目 標	3	2	4	4	5	5
	実 績	3	4				
	達成率	100%	200%				
主な取組の成果	・ブックトーク、おはなし会については、昨年度はコロナ禍により中止が相次いだ、今年度は学校から順調に依頼があった。しかし、依頼回数は学校により差があった。 ・図書館の団体貸出託送サービスの認知度が上がってきた。 ・学校図書館に関する相談や本の廃棄作業については、依頼のあった学校へ出向き実施した。学校図書館の状態にもよるが、1校あたり、2～6日を要した。						
達成度の説明・理由	評価						
・令和2年度の実績からコロナ禍であることも考慮し、目標を設定したため目標値が低かった。 ・令和3年度もコロナ禍であったが、学校から積極的な図書館の利用があり実績につながった。 ・目標値が低かったため、達成度は「目標を超えて達成」となった。							
今後の課題							
・おはなし会（出前講座）や団体託送サービスの依頼数は、学校により差がある。これらのサービスを教職員がどれだけ知っているかで利用頻度が異なる。これまで利用のない教職員にも利用してもらえるよう認知度を上げていきたい。 ・ブックトーク等の出前講座ができる図書館スタッフの養成や講師の確保を図る。							

令和3年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	16	所属課	図書館				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。						
取組項目	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人までの多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 図書館の情報化を推進し、ICTを活用した次世代の図書館づくりをめざします。						
取組内容	・図書資料を充実し、魅力あるイベントを開催することにより来館者数の増を図る。 ・コロナ禍等においても自動貸出機・返却機の導入で非対面の貸出返却を実施するなど工夫し、図書館サービスの継続を図る。 ・電子図書館システムについて研究し、電子書籍貸出サービスの開始を検討する。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
年間図書館来館者数（人）。 館内の賑わいを測ることで、多様な世代への読書喚起への取り組み度合いを測るため目標として設定した。	目 標	250,000	210,900	213,200	215,400	217,700	220,000
	実 績	153,107	174,871				
	達成率	61%	83%				
図書館サービス利用者数：図書資料の貸出と視聴覚資料の視聴等のサービスを利用した合計人数（人）。 図書資料及びサービスの充実度合いを測るため目標として設定した。	目 標	100,000	100,000	100,500	101,000	101,500	102,000
	実 績	79,399	98,145				
	達成率	79%	98%				
	目 標						
	実 績						
	達成率						
主な取組の成果	・年間来館者数については、小規模なイベントの回数を重ねることで、来館者数増を目指した。 ・AVコーナーのリニューアルを実施し、新たな利用者の来館につなげた。 ・多方面に渡る図書資料を購入し、貸出数の増加を目指した。						
達成度の説明・理由	・令和2年度と比較すれば、図書館来館者数及びサービス利用者数は増加した。 しかし、目標値には達することができなかったため、達成度は「目標を下回る」とした。						
今後の課題	・コロナ新規感染者数の増や新たな波が来ることで、利用者が警戒をして図書館から足が遠のく。 復調しても流行が繰り返される度に減少してしまう。 ・来年度、電子図書館サービスを導入することで、今まで利用のなかった人に対しての貸出が期待される。						

別表1 市内産食材の使用状況の推移 (番号7)

食材	納入者	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
米	県体育協会	47,807	44,368	42,921	45,902
野菜	愛菜館	8,559	9,810	8,601	13,590
野菜	播磨農高	73	53	146	1,089
果物・野菜	神戸大学	203	179	287	1,218
里芋	元源	107	87	39	562
かぼちゃ	加西ブランド協会		137	224	161
トマトピューレ	JA兵庫みらい		49	158	178
味噌・青大豆	富田まちづくり協議会	1,924	637	0	42
大葉	亀尾農園				3
合計		58,673	55,319	52,376	62,745
配食人数(人)		3,304	3,274	3,279	3,226
1人当・年間消費重量(kg/人)		17.8	16.9	16.0	19.4

総合コメント

評価委員会 堀内委員の評価	概ね妥当
令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、教育委員会や学校等における様々な取組が実施困難な状況であったかと思えます。そのような中において、加西市教育振興基本計画の初年度であり、新学習指導要領が小中学校ともに全面実施となる令和3年度において、「郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり」を基本理念として、学校園・家庭・地域社会が一体となり、市民全てがかかわる教育の推進を目指し、取組を進めてこられた関係の皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。 評価につきましては、全ての指標が目標値を客観的に評価が可能な数値により設定されており、評価の妥当性・信頼性の観点から適切であると考えます。他方で、一部の指標につきましては、昨年度の実績より低い目標を設定しているにもかかわらず難易度の設定がそれに見合ったものとされていないか、指標の設定や目標値の設定が取組項目に照らして分かりにくいものであったり、過大に評価がなされているのではないかと思われるものが若干ですが見受けられました。これらについては客観的に説明が可能であるかという視点をより一層重視し今後改善を図っていただきたいと思います。また、達成度につきましては、一部に達成度が1のものがあり、コロナ禍の影響を受けたものと考えられますが、収束が見通せない中において、新たな実施方法を検討するなど今後どのように取組を進めていくのかという視点で改善を図ることも重要であると思えます。以上のように一部に改善すべき課題は見受けられたものの、全体を通じては、指標や目標値の設定及びその達成状況に大きな問題点はないと考えられ、達成度2以上を多くの項目が達成していることから、概ね妥当であると考えます。 第3期の教育振興基本計画には、加西STEAMなど全国に先駆けた意欲的な取組など多くの魅力的な取組が掲げられています。これらの取組が今後も計画的かつ確実に実施され、「すべての人が学び・育みあうまち」の実現を目指して、子供たちを含むすべての市民に質の高い教育が展開されることを期待します。	

評価委員会 押田委員の評価	概ね妥当
加西市の教育、個別の事業自体は、コロナ禍にあっても工夫改善されつつあります。評価票の作成にあたり、教育委員会でも協議されておりますが、引き続き、市民に信頼される教育委員会となるべく、点検評価に教育委員が主体的に関わるような体制を整備されることを祈念しております。 なお、令和3年度に策定された第3次加西市教育振興基本計画に基づき、本評価票も改定されました。但し、各施策（取組）と評価項目が一致していないところがあります。また、昨年度の指摘を踏まえ令和7年度までの目標設定がなされておりますが、単なる回数や参加者数等ではなく、教育委員会の取組によって、どのような変化や効果が現れるのかを点検評価できるように再度吟味いただきたい。その上で、各年度（今回は令和3年度）に取り組むべき施策・事業は何かを明確にし、その取組によってもたらされる効果検証を丁寧に行っていただき、そのデータを根拠に目標が達成されたのか否か、評価していただきます。	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の4段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学大学院 教授	堀内 昭彦
兵庫教育大学大学院 准教授	押田 貴久